

その為には多職種が連携できる環境が必要となる。安全対策の一環として、歯科麻酔科研修による気管内挿管実習や、歯科医師国家資格以外の専門資格取得により更なる向上を目指す必要性を感じた。

【結語】発足して間もないため必ずしも十分とは言えない対応であるが、地域社会に貢献出来るよう更なる準備を進めていくつもりである。今回、平成28年4月から10月までの当科での対応と症例を報告した。

5) デジタル機器を応用したインフォームドコンセントについて

○渡邊 崇, 山家 尚仁, 佐藤 健太
佐藤麻里恵, 北條健太郎, 奥座 崇史
保田 穰, 成田 知史, 小松 泰典
鈴木 史彦, 清野 晃孝, 佐々木重夫
瀬川 洋, 杉田 俊博

(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科)

【緒言】医療行為を行う上でインフォームドコンセントは必須である。一般開業医においてインフォームドコンセントを行う一つとしてユニットにディスプレイが備えられマイクロスコープやレントゲン画像などの視覚媒体を用いることで、患者の理解度を深めることが多くなってきている。しかし本院ではそのような視覚媒体が少なくかつその効果が不明である。そこでその視覚媒体が患者理解度にあたる影響について比較・検討した。

【概要】現在、演者は本院においてルーペを用いて診療を行い、必要に応じて患部をカメラで撮影しタブレット端末で説明する方法を行っている。しかしながら、これら一連の作業は煩雑でありかつ時間を要する。そこで、マイクロスコープと患者説明ツールを用いた方法とで患者理解度が異なるか否かをVAS (Visual Analogue Scale: 以下VAS) を用いて比較検討した。

その結果、VASにおいてルーペを用いて診療を行い、必要に応じて患部をカメラで撮影しタブレット端末で説明する方法では平均67.4mmであるのに対し、マイクロスコープと患者説明ツールを用いた方法において平均98.0mmと短時間で効率的な説明を行うことが可能でありかつ高い患者理解度が得られた。

【考察】歯科医師と患者の間には民法656条に基づく診療契約 (準委任契約) における義務, すなわちインフォームドコンセントが必須となる。インフォームドコンセントにおける一番の問題点は歯科医師と患者の間の決定的な知識の格差であり, この格差を埋める, 患者の十分な『理解』が重要であると言われ, できる限り易しい言葉や表現方法を選ぶ必要がある。そこで今回, その『理解』を深める目的として表現方法の一つである視覚媒体としてマイクロスコープと患者説明ツールを用いたことで, 患者の理解度が向上したと考えられた。よって本院でも今後のデジタル化を見据えて, マイクロスコープや患者説明ソフトの運用方法の多様化を検討する必要があると思われる。

【結語】今回, マイクロスコープと患者説明用ソフトを用いてインフォームドコンセントを行うことで, 高い患者理解度を得ることができたので報告した。

6) 2016年慶熙大学国際交流報告

○林田 明大¹, 遠藤 凌介¹, 金子 正慶¹
小木田勇馬¹, 斉藤 温子¹, 笹井 真澄¹
中島千絵子¹, 竜 立雄², 山崎 信也³
大野 敬³

(奥羽大・歯学部学生¹, 奥羽大・歯・成長発育歯², 奥羽大・歯・口腔外科³)

【緒言】2016年8月1日から8月7日まで本学姉妹校である韓国慶熙大学歯学部とその関連病院で研修を行った。本学から計7名の学生が参加した。研修内容として, 大学病院と関連病院内での各科の見学と講義, 英語での自己紹介, 大学キャンパス内の見学, 慶熙大学の先生, 学生を含めての交流会を行った。これらの交流内容について発表を行った。

【研修内容】大学付属病院においては, 歓迎会で学生による英語での自己紹介を含めたプレゼンテーションを行った。さらに各科の見学では診療の様子や研究内容, 過去の症例についての説明を聞いた。特に放射線科では3D スキャナーを用いた顔面の分析, 矯正科ではインダイレクトボンディング法で実際に使われた模型や, 最新の機能検査, 歯科矯正用アンカースクリューを用いた症